

平成 25 年度第 2 回山形駅西口拠点施設検討有識者懇談会 議事録

平成 26 年 2 月 19 日（水）15:00～16:40

県庁舎 701 会議室

貝山委員長：

第 1 回懇談会の際は大変活発なご議論をいただきました。その後、議会でも深く議論いただいたようです。私は新聞紙上でそれを知ることしかできませんでしたが、議会ではかなり踏み込んだご意見、ご発言があったということが書かれておりました。

それを踏まえまして、今回、前回示された概要案を修正した提案がなされております。それについて前回同様、皆さんから率直なご意見をいただければと考えております。

今回は、修正点を中心にご説明いただきたいと思います。折角ご出席いただきましたので、皆様から一人一人発言していただきたいと思います。これまでは、名簿順、三辻先生から順番に進めたのですが、逆から、山口委員からということになりますので、よろしく願いいたします。それでは事務局から、概要についての説明をお願いいたします。

事務局：

県民文化課文化施設主幹の齋藤です。簡単に説明させていただきます。今、委員長からお話がありましたとおり、昨年 11 月に概要（案）をお示しし、活発なご意見をいただきました。その後、県議会でも多くのご意見をいただきました。また、同時並行的に、パブリック・コメントを 12 月 13 日から 1 月 14 日、約 1 ヶ月にわたり実施いたしました。その結果としては、43 件、項目で申しますと 120 件強の項目についてご意見をいただいております。内容的には、本懇談会でのご意見と同様のもののほか、多岐にわたるご意見をいただきました。そうしたものを踏まえまして、本日お示ししております概要の修正案になります。修正点を中心に簡単に説明させていただきます。

まず、A 3 版の資料、大きく左側のところです。前回は理念として書いていたところ、オレンジ色の部分ですが、ここにはコンセプト、もう一つは県民の方にわかりやすい形で、西口拠点施設がどういうことを目指し、また、県民の皆様はどういう効果をもたらし、どういう狙いをもって進めるかということについて明確に整理しました。

大きくはコンセプトにあるように、一つは文化に関するもの、もう一つは県政課題の解決に資する、また機能を有する複合施設ということで、山形の良さを発信できる、「心豊かで幸せな山形生活～Yamagata happy life～」を発信する施設ということでコンセプトを整理しました。

その中で、拠点施設の目指すものとして、文化に関するもの、これは従前より根幹の部分として、「鑑賞」「交流」「創造・人材育成」「保存・伝承」という機能を実現することと同時に、2 点目ですが、「山形県の良さを発信する」ことで、「Yamagata Agriculture Show window」を中心として山形の良さを発信していきたいと考えました。また、建物全体で発

信するという意味では、県産木材の利用とか、有機ELの活用など、県産品・県産技術の発信をしていく、そういう意味で県民の皆様、または全国に向かって山形の良さを発信してまいりたいということです。

また、県政課題の解決に資する機能、複合的な機能がございまして。ノーマライゼーションの実現ですとか、また、子育て期の心豊かな山形ライフの支援ということで、各種の機能を持っていきたいと考えました。また従前から議論いただいていた災害時の帰宅困難、自然エネルギー、太陽光の利用等のイメージ発信も併せて行ってまいりたいと考えております。当然のことながらこの施設自体が生きている施設ですので、下の（４）ですが、経済効果ということも多岐にわたり期待できるということも整理・明示をしているところであります。このことについては、本編の２頁のところでも改めて少し詳しく述べております。

次に、具体的な修正の部分です。まず１点目です。文化の機能面ですが、大ホールのところは点線書きで書いておりますが、従前ご提案していた小ホールについては、県内に同様・同規模のホールがあります。たとえば隣の山形テルサ、また、山形市内で申し上げると、遊学館や、山形市中央公民館にあるホール、山形市民会館小ホールなど、その他県内を見渡しますと、各市町村にある同程度・同規模のホールもあります。是非こういうものを有効活用していきたいということ、また、その活性化ということも踏まえて、今回の計画からは割愛したところであります。

右欄については、表現を変えておりますが、大ホール部門、創造育成部門は従前と同じです。表現を変えたのは、ロビーについて、従前は賑わいということで若干埋もれていたところを明確にするとともに、伝統芸能・伝承文化などを発信・紹介するスペース、販売促進等も含めたイベントができるようなスペースということで書き加えております。

管理部門では、託児機能を常設化していきたいということを明示しました。

次に、山形発信機能の部分です。前回は賑わいという側面でも本懇談会でも多くのご議論をいただき、議会やパブリック・コメントでも多様なご意見をいただいたところであります。「見て・触れて・味わって・購入する」というストーリーの中で、特に山形というものを発信していきたいということで、本県の高度な技術である農業技術の先端技術を発信しながら、「Yamagata Agriculture Show window」という形での施設の整備を行い、そこで展示をしたり飾ったりしているものを、産直レストラン・カフェ、県産品ショップで、味わったり、購入できたりというストーリー性のある中で、発信力をつけていきたいという企画をしているところであります。

右側の防災減災機能については、これは従前の計画を踏襲しております。前回の懇談会での回遊性の議論等を踏まえながら、山形駅との連絡通路について、事業費の増にはなりますが、回遊性の確保を考えていきたいということで修正しました。

敷地概要、整備スケジュール、管理運営方針等は従前のおりですが、先ほど申し上げた何点かの見直し、一部の追加・変更等により、全床面積が従前は17,500㎡ほどであったものが、現段階では15,600㎡になるとともに、事業費が、前回は約159億円という提示をしておりましたが、現下の財政の状況、また事後のランニングのコストなども踏まえながら、143億円と、約1割程度の縮小を図っております。それに伴いまして、いわゆるPF

Iの前提となりますVFMについても、約4,000万円ほどの減少となっております。

また、発信機能については、前回のご意見の中で、周辺との関係もご議論いただいております。議会からも同様のご意見をいただいております。そうしたことを踏まえ、この発信機能である産直レストラン・カフェ等については、山形らしさというものにこだわりを持って、近隣との関係性というものにも充分配慮しながら、民間の力をお借りしていくものと整理しました。

以上が概要案での修正の主な箇所になり、それを踏まえた形でお手元のA4版の冊子、特に大きく変えましたのは、2頁、この施設について、従前は理念として示していたものを、役割、またそれが目指すもの、県民の皆様はどういう形でお示しできるか、ということを書き直したつもりです。

そのほか、発信機能、9頁の部分ですが、今ご説明した内容を踏まえ修正しております。そのほか、事業費、14頁についても、その観点の中で積算、削減した面積を踏まえて143億円と修正をしたところです。最後の16頁ですが、今説明したような形で発信機能、経営主体というものもA3版と同様に修正しております。

以上、概ね修正点です。よろしく願いいたします。

貝山委員長：

ありがとうございました。それでは山口委員から順にご発言をいただきたいと思います。

山口委員：

2ヶ月余りで少し小振りになってしまったという、少し残念な思いと、この中で最大限にやっていくにはどうしたらいいかという、そこがこれからの議論だと思うのですが、前回も申し上げましたように、2,000席の大ホール以外の何か目玉となるようなものは何だろうか考えた時に、前回は野菜工場というものがあって、それが目玉になりうると思っていたのですが、それも無くなってしまったので、何か代わりになるような、もちろん山形らしいというところと繋げて、全国から来たくなるような、皆さん見てみたくなるような何か目玉が欲しいと思います。この中で最大限にと先ほど言ったのですが、例えばホールの幕を山形県らしいものにするとか、縄文のヴィーナスのような何か国宝級のものをどこかに展示するとか、全国から見てみたくなる位のものがあつたらいいなと思います。その発信の部分に関してはとても期待していますので、考えて考えて良いものを出していけたらと思います。

金委員：

修正案を見せていただきました。小ホールが無くなったということで、今あるものを最大限に活用してここはコンパクトに行くという考えを伺いました。

この間も、ギャラリーを造る、造らないという話もありましたが、その話も無くなっていき、特に設置する方向は無いということでちょっとがっかりしていますが、今あるものを最大限に活かしてやるのは良いのですけれども、ちょっとした展示などができるスパー

スをホワイトエに造るとか、芸術とか鑑賞するものは常に身近にあった方が良いのではという考えがありまして、館内全体をギャラリーと仮定して、様々なところにいろんな方が常に作品発表ができるように、レールとかフックとかピンスポットなどを設置できるように計画していただけたら嬉しいと今更ながらに思いました。

震災から約3年になりますが、先日の大雪の被害も報道で見ているのですが、防災機能もこの施設にあると言うのですが、一体どの位活用できるものなのか、どの位機能できるのか疑問があります。震災の時のようなパニックした状態の時に、この施設がどの位活用できるのかを改めて考えておりまして、一方で、目一杯詰め込むと、それはそれで活用が難しくなるのかなとも思っております。

貝山委員長：

防災機能、それから、ちゃんとした展示室でなくとも、廊下等のスペースを利用しながら、山形グランドホテルとかではそういうことをやっているわけですよね。そういうことをやれないのかというご質問だったと思うのですが。

事務局：

概要の10頁、ロビーのところ、絵画等の展示に対応できるレール、ワイヤー、フック等を設置したいということを書いております。今後も、今いただいたご意見や、ほかのご意見も活用させていただく部分もあろうかと思っております。

防災についてですが、どの位の量、何日位、何人位というところまでは今のところ想定はしておりませんが、当然、インフラである電気ですとか、水道とかが供給されなくなるということも想定しながら、11頁になりますが、水道施設とか、電気、蓄電の施設などを考えたいと思っております。あとはそれを通常時、イベントでも使うことによって、急に何かあった時に、使えるか使えないかということにならないような工夫も考えたいと思っております。

企画振興部長：

防災機能に関しましては、危機管理の部門と協議して、どういう役割をここで担うかということを決めておりました。ここは駅ですので、基本的に帰宅困難者、大震災の時も駅に電車が止まって、一時的に皆さん避難されておりましたので、そこに対する対応をここでとろうということになっております。本格的な対応については、例えば総合運動公園とか、物資は総合支庁に蓄えるとか、そういう分担の中で考えておりまして、ここで全部対応するという考えではありませんので、そこはご理解賜りたいと思っております。

貝山委員長：

こういう機能というのは、何も県の施設が全て担うということではないのだろうと思っております。市の施設もありますし、民間の施設もあります。実はホテルが一番良い機能を果たすことになるわけで、ああいう周辺のホテルも上手く利用しながらこの問題を解決してい

くということで、まさに官民連携でこういうことにあたらなくてはいけないと思います。ただ、中核としてこの施設が機能していくことを私は期待したいと思いますが、全てここで解決することは無理があると思います。

高橋委員：

コンセプト、「Yamagata happy life」はすごく良いと思いました。私達若い世代も、山形で暮らしていくということに幸せを感じ、誇りを持っていきたいと思っているので、それが発信できる場所としてこの施設を使っていきたい、使っていけたら身近な施設になるのではと思います。

文化を鑑賞するだけでなく、ミーティングをしたりとか、新たなプロジェクトを立ち上げたりとか、そういう何かが生まれる場所にできればと思います。そのために、前回は申し上げたのですけれども、割と自由に使える、長居しても良い場所だったり、ミーティングルームを複数設けると書いてあるので、そこが使えるのかなとも思うのですが、例えばWi-Fi設備がきちんと整っていれば、旅行者にも便利だし、ミーティングをする時にも使えるといったことになると良いのかなと思います。

文化施設ですので、一流のものに触れながら、そういう創作、アイデアが生まれていくというのはとても良いものが生まれそうな気がしています。ですから、ギャラリーがあったりとか、そういうものも含めて、若い世代がそこに集って刺激を受けながら、新しい山形の文化を作っていくような、そんな場所としての機能を期待したいと思います。

貝山委員長：

特に事務局の方からご発言を求めることはございませんか。

高橋委員：

インターネット設備がどうなるのかという点についてお願いします。

事務局：

ご意見として承らせていただいて、これから検討させていただきます。

古内委員：

私は県民会館ができることについては大賛成ですし、絶対に必要だと思っています。ただ、以前、テルサを壊してでもサッカースタジアムを造れと申し上げた時に、かなりいろいろなところで良い方向にも悪い方向にも波及したということがありました。その時の本意は何だったのかと言いますと、どうせ造るなら完全なもの、本物を作って、100年先のワールドカップまで使える位の本物を造るためには、テルサを壊してもやむ無しということで申し上げたのでした。

今回、この修正を見た時に、小ホールが無い、野菜栽培工場が無い、展示スペースも無い、テルサとの連絡通路も無いと。移動するにおいて、連絡通路はないと駄目です。11ト

ントラックが出入りして、一般のパーキング車両が出入りするようなところを、楽器を持った人達が中ホール、練習会場を行ったり来たりしては事故が起きるのは目に見えて分かりますから、中空回廊が無かったならば、私は非常に危険だと思うので、下の道路を通らなければならない、地下も掘らなければ中空回廊も無いという状況だとすると、何のために県民会館を造るのかということ非常に疑問に思いました。

ですから、これから先、アベノミクスがどこまで波及するかわかりませんが、経済効果がどんどん上がるでしょうし、東京オリンピックが経済をどんどん上げてくれると考えた時に、税収が上がるまで、県民会館を造るのをあと5年位待っても私は良いのではないかと思います。税収が上がった時に、それこそ展示スペースも造れるような、ちゃんとした、完璧の、本物の、小ホールも入った県民会館を建ててもらった方が良いと思います。なぜなら、私は地元の商店街の者として14年間待ちました。2001年1月1日に霞城セントラルビルが出来上がりました。その年の5月にテルサが出来上がりました。それと同時に本来、県民会館が出来上がらなければならなかったのです。その時からずっと県は何もしてくれなかった。14年間待たされて、今からあと4、5年待たされたところで私はそんなに長いとは感じません。経済が良くなって、税収が上がるようになったならば、本物、私達がここで話をしている一番最初のもの、それ以上のものが建つようにして欲しいと思うので、4～5年、5～6年、東京オリンピック前後位まで私は待つべきだと思います。

それから、後から質問したいと思ったのですが、前回、貝山委員長がいらっしゃらなくて、座長に園部副委員長になった時に質問したのですが、駅西口の土地が本当に相応しいのかと、県民会館そのものが文教ゾーンである県立病院跡地が一番相応しいのではないかと申し上げたところ、私達のこの会議は、県民会館の建物を話し合う会議であって、ここが良いとかあそこが良いとかという場所を考えるような話をする場ではないと。仮にそういう場所があるのであれば、別なところでやってくれと言われたのです。ここで質問ですが、県民会館がどこに建つのが一番相応しいのかということを考える、立つ場所を考えるような別のところは実際どこかにあるのでしょうか。

事務局：

先日の話、園部副委員長にも確認させていただきました。園部副委員長からどういう意味で申し上げたのかと伺ったところ、ここは場所の話をする場ではないということで、懇談会の外でいろんな形で様々なご意見、ご発言については、という意味で申し上げたと確認しております。

古内委員：

それならば意見を申し上げたい。一緒になって考えてみたいという気持ちがありますので、もしそういう場所がなければ、考える場所を提供していただきたいと思います。その辺よろしくお願いします。

野口委員：

皆さんがおっしゃったとおり、コンパクトな計画になったというのが感想です。実は、私達、通常は七日町で子育て広場をやっているのですが、今回、ビルの耐震工事で、霞城セントラルの中に場所を移して運営をしております。今の場所の話ではないのですけれども、やはり街中にあっても、駅の近くにある意味が実はすごくあると実感をしているところです。電車に乗ってこられる方、特に高齢者の方は車の運転ということでも不安な方がとても多いと思うのですが、そういった方々が集まりやすい場所ではあるのかなと、ちょうど場所の話が出てきたのでそう思ったところです。

そこで、以前の計画からちょっと縮小したのではないかと思ったのが、県民が集う場所という部分かと思いました。小ホールという一般の県民が使いやすい場所であったり、サロンのような場所、人々が気軽に集まって、少し長居ができるような居心地の良い場所というのが意見の中で皆様からも出ていたと思いますが、私も是非その部分はなんとか工夫をして盛り込んでいただきたいと思ったところです。

関連するところでは、8頁にボランティア室というのがありましたので、このあたりの活用がそこに当たるのかと思ったのですが、若者や子どもたちの育成という視点とともに、社会人の方、高齢者の方、また、子育て中の親御さんとか、様々な人達が生涯学習の場として使えるような県民会館にしていだければと思ったところです。

それから、前回の懇談会でも申し上げましたが、子育て期の10年間というものは、映画や音楽などの様々な芸術鑑賞を諦めてしまうような時期だと思います。託児ルーム、それから親子観覧席ということで、その設備については非常に期待をしているところですので、是非使いやすいものにしていただきたいと思います。

3点目ですが、指定管理ということで、また県民が関わっての運営の話も今回きちっと書いていただいたかと思っています。山形市民会館はもともと市が直営で運営しておりましたが、その時に様々な芸術分野の代表が集まって議論している場がありました。是非新しい県民会館になっても、そういった県民の知恵を發揮できるような場になっていただければと思います。様々な人の意見を聞くということは非常に難しい側面もあるのですけれども、可能性を秘めたものであると思いますので、是非そのあたりを配慮して考えていただければと思います。

貝山委員長：

県民が集う場、あるいは生涯学習、クリエイションと言いますか、先ほどの高橋委員の創造の場ということにも繋がるのですが、そういう機能というのはこの新しい概要の中でちゃんと担保されるのだろうかという、まとめて言えばそういうご質問だと思いますが、事務局いかがでしょうか。

事務局：

各種の練習室なども計画に織り込んでおりますし、今いただきましたご意見についても承りながら進めていきたいと思っております。

貝山委員長：

この部屋はこれだけのために使うという、そういう時代ではないと思います。例えば議会を行う部屋であっても、市民がそこに集って何か話し合いをすとか、そういう時代だと思います。ですから、あまり部屋毎に機能をフィックスしないということが今のやり方なので、そういう施設の運営をしていかないと、施設は本当に人が集まらなくなってしまう。ですから、むしろ施設運営の柔軟性について工夫してやっていただきたいと思います。かつて、ある市役所の建替えの際に一委員として加わったことがあります。合併があればこの役所がいなくなるかもしれない、議会室もいなくなるかもしれない、そうすると、そういうことも考えながら建替えをしていかななくてはならない、すぐ利用方法のチェンジができるような、そういうフレキシビリティを持たせた施設を造らなければならないと、そういう議論になったことがあります。県民会館として未来永劫使っていくのだと思いますが、その中の使い方については時代に合った柔軟な使い方をして欲しいと思います。

安堵委員：

大ホールが私の中ではメインのものなので、前回と内容的には何も変わっていないのですが、前回も話しましたが、2,000席はもちろん最大としては必要ですし、大きいものを見る時はそれで良いのですが、可変式で1,000席でも使えるということができると良いと思います。実際問題山形県民として私が使おうと思った時には、2,000席は敷居が高いです。2,000人集めることは努力しますが、それができないと判断した時に、使わないという選択をしてしまうのかなという感じがあるので、そこは前回と同じ発言ですがもう一度言わせていただきます。

迫りの機構なのですけれども、オーケストラピットはあるけれども、舞台上の迫りは全く無い、そして花道も無いとのことですが、歌舞伎などを見る時には演出としてすごく大切な部分だと思うのです。どこもカットされていないものを見るのが心豊かな芸術の鑑賞だと思うので、何かカットした演出のものを見なければならぬホールなのだと思えば、今まであるものと変わらないと思うので、そこはもう少し考える余地はあると思います。

あと、先ほどもお話が出ていましたけれども、山形県外の人に向けての施設なのか、山形県民が興味を持つようにするべきなのか、私はホール以外のことはよくわからないのですが、山形県民はどこに興味を持ってこの施設に集まれば良いのかなという気はしました。

貝山委員長：

袖とか、フル装備でなさそうだとということで懸念を示していますが、あるいは2,000席を1,000席に組み替えて他の用途にも使えるようにしてほしいというご発言だったと思いますけれども、いかがでしょうか。

事務局：

舞台の装置や機構に関してのご質問ですが、まず、花道については、5頁に書いておりますが、脇花道について想定しております。迫り機構、歌舞伎の話については、興行主の方等々含めましてお話を聞いたうえで判断したところです。まず、1点目として、例えば歌舞伎など全国的に回られている巡業などの場合ですと、迫りを使われて演出をすることはほとんど無いというお話でした。理由は、施設毎に迫りの場所、大きさ、機構の構造等々が異なっていて、一個一個の公演で、場所ごとに合わせていくのは難しいのでとのこと。もう1点は、デジタル的な演出が進んでいるので、そういうものでの代替性があるということで、今回は、安全性の確保などにもかなりのコストがかかるということも踏まえまして、そういうものについては割愛したということです。

大谷委員：

私達は、この駅西の拠点施設について要望してきたわけですが、それは文化施設として建ててほしいということで、協会の皆さんと話し合っ、その総意もまとめて、要望書も出したりしてきました。もう少し具体的に言いますと、この駅西には文化施設が、単なる中心というだけでなく、文化施設であってほしいということで、大ホールや小ホールの構想、それにギャラリーという展示施設も兼ねて、芸術文化活動の拠点として造ってほしいと。単に県民会館を新しくするということだけではなく、これからの山形県で芸術文化活動に携わる者達が活用する場としてお願いしたいということを書いてきたのですが、今回出てきた、私達に示された案は、出てくるたびに私達の要望から遠くなっておりまして、非常に残念に思っております。

しかし、今回のこの施設については、2,000席の大ホールを中心にした建物になっておりますし、この部分については私達は大変前から是非お願いしたいと考えていたものだから、その部分については是非実現していただきたいし、こうしていろいろな方、様々な場所で話し合われて、実現に向け動いていく中で段々スリムになってきてまして、私達の思いから少し離れていってはおりますが、何としま、次の世代のための施設と私達は考えておりますので、それを少しでも早く実現してほしい。

まず、これが全てではないと思いますので、例えば、ギャラリーや展示室を外したというのも、それはそれでまた別に考えていただくことがあるわけですから、折角こうして組み立ててきたものが、一步一步前に進んでいくと、進めていこうとしている県の取組みに私は敬意を表します。是非実現させてほしい。できたら一年でも一日でも早く実現してほしい。今の子どもたちが置き去りにされている現実を直視してもらえば、この案を実現するよう進めていただくようお願いしたいと思います。

いろいろ注文はありますけれども、今、県が進めようとしているものが是非実現するように私達も応援していきたいと思ひます。一方で、ここから外された部分については実現をお願いすべく、今後も要望していくつもりでおります。

藤野委員：

今発言された大谷先生と同じような感想なのですが、これまでの間、議会で集中審議が行われ、事務局の方が大変苦勞されてこの案を作成していただいたということは、私も敬意を表したいと思います。縮小するにあたって、選択と集中と言いますか、どれかを諦めて、しかし残すものに関しては極力その機能を落とさないというコンセプトでやられたのだと思います。そういう面で、今回示された内容というのは、ぎりぎりのところで山形県らしい文化の拠点施設としての、今できる限りの機能は残しているのかなと思います。

その上で、ざっと見せていただいて、表現の問題で何箇所か、例えばこの本文の7頁の(2)、創造育成部門のところの①、音楽練習室のところ、「コンサートの開催時や合唱、吹奏楽等の全国大会・東北大会の開催時に備え」という表現がありますが、この表現を同じような文章、例えば本文の4頁のところですけども、「山形県のメインホールとして、合唱コンクールなど全国大会や東北大会」とありますけれども、バランスの面で言えば、合唱ともう一つ、今、若者の音楽活動の中で盛んなのは吹奏楽ですので、吹奏楽という言葉を入れないと、「等」でくくられてしまうと、折角7頁の方で吹奏楽という言葉も入っておりますので、本文の方で言えば4頁、それからこのポンチ絵の方でも、合唱等でくくられているところが2ヶ所ほどあります。左側のオレンジの部分ですが、「(1) 山形の文化を育む」の②の部分、「合唱等の」ではなく、ここにも吹奏楽という言葉を入れるとか、それから、右側の「創造育成部門」の音楽練習室の3室、「合唱等の全国大会等の開催に支障がないよう配慮」とありますが、こういうところで、吹奏楽という具体的な文字があると、関係者は「等」でくくられるよりは気持ちが良いと思いますので、その辺のご配慮をお願いします。もし載せないなら両方とも載せないで、例えば大ホール部門のところには、「全国大会等の開催基準」とありますので、これならこれで良いと思いますので、その辺が音楽関係者としては気になったところです。

それから、これは要望ではなく感想ですけども、いよいよこれが建設されて、完成時には運営が始まり、その運営をしていくのは指定管理者となっておりますけれども、運営していくのは指定管理者が中心となっていくとしても、実際は人ですね、そういう人材を地元でも育成していかなければならないのではないかと。それは大学というところが、我々の使命としてこういう新しい文化施設を運営していく人材を育成すべく、実際、大学院等でもカリキュラムを組んでおりますので、この施設を出口として、こういうところで活躍できるということであれば、具体的な教育内容にも反映させていきたいと思います。ですので、そういう人の育成については大学に責任があると思っています。

先ほどの要望という面では表現のところでは合唱と吹奏楽を並べていただければ良いのかなと思いました。あとは事務局のご努力に敬意を表したいと思います。

貝山委員長：

文言の修正はよろしいですね。横並びでバランス良く漏れなく書いていただきたいということだと思います。管理運営を実際誰が担うのかという、おそらく県の直営ではなくなるのだらうと思いますので、民間の創意工夫ということが大変重要なポイントになってき

ます。その時に県内でそういう人材を確保できるかどうか、将来的にできないとしたら、人材育成も含めて、芸術文化の活動の一環としてやっていかなければいけないという、もっともなご意見だと思います。いつもこういう管理運営を東京の大手とか有名どころに任せるといふ、それはそれで良いのかもしれないけれども、山形らしさというのには、そういう管理運営も含めて出していけないといけないと。そのためには人材ということが非常に鍵になってくるだろうと、大変重要なご発言をいただきました。

本間委員：

前の基本設計時に、プロポーザルに提案して仕事に関わったのは平成10年でした。平成10年10月に基本設計を私は委託いただいたとっておりますが、そういう通知を県からいただきまして、基本設計をまとめました。その後、修正基本設計の委託を受けて、平成15年3月に修正基本設計をまとめております。しばらくして凍結の状態を新聞等で知りました。しばらく凍結の状態になったと。しかしその時点で凍結しましたという通知もいただいておりますので、いずれいつか復活するのだろうと思っております。計画地は広場のままになっておりました。何もないのも良いものだと個人的にはそんなことも考えました。ようやく動き出しました第1回の有識者懇談会では、私は発言を控えさせていただきたいと申し上げました。やはりマスタープランに関わっていた立場としてです。皆様のご意見を聞く立場で指名を受けたのかなと思っております。最初は何も発言をしないでおこうと思っていたのですが、確かに周辺環境も随分変わってまいりましたので、基本設計は見直さなければならぬと思っております。

前の基本設計の段階では、作家の井上ひさしさんもメンバーに入っておられました。山形らしい賑わい性はどこに作るかということに非常に腐心されておられました。井上ひさしさんも、維持管理にはお金がかかるから、稼がなくてはならないという観点からそうおっしゃったのでしょう。それで、もう一人、作曲家の服部公一さんもメンバーに入っておられました。君、芸術監督というのも大変なんだよと、そういう人の意見も無視できないよというようなことを伺ったこともありますが、いずれにしましても、賑わい性というのは、知事もおっしゃっておられますが、それは県民のために考えるべきであると同時に、あの周辺、随分ホテルやマンションも建ちましたよね。その人達のことを考えると、ホテルも県外客のためのホテルとは限らないわけですけども、ホテルと駅との関係ですね、この部分は当初はっきりした条件は示されなかったのですが、通路に賑わい性は作れるのではないかと漠然と思っております。いろいろ展示ができる、ギャラリーはなくともですね、そういうコンコースのようなものが出来て、そこで地場産のものを展示するとかですね、ギャラリーが無くなったとって悲観的に考えないで、逆に駅との通路は必ず通るわけですから、ちゃんと造ればですね。そういう活かし方もできるのではないかと思っております。

テルサには私は構造設計と現場監理の方で関わっております、いずれテルサとは繋ぐ時代が来るのではないかと思います、繋げても良いように考えておきました。今、古内さんがおっしゃったように、あそこは繋がらないとどうしようもないと思うのです。それも自分が

テルサに関わっていましたので、繋がるべき時代がきっと来るのだらうと漠然と思って考慮しておりました。それは是非そうなって然るべきだと思います。

それから、2,000名というホールの大きさは最初から変わっていないわけですから、それで1,000名の場合どうしたら良いかということも考えておきました。1,000名にしてホールを仕切ってしまうと、音響特性が変わってしまいます。ですから、そうしないで、ホールは大きくして、今のところ4層あるのでしょうか、計画では、3層、4層を全部暗転にしてしまって、暗くしてしまうと。そこで音響特性を変えないで空間は小さくなったようなイメージで使えるように、そういう設計をしておりました。

いずれにしましても、10数年たっていますので、皆さんの意見を聞いて、それを活かすような立場に立たせていただけると、参考意見として大変ありがたく思っております。

大泉委員：

今回のプランについて、他の何名の委員の方からも規模が小さくなったと言う意見が出されておりますが、先に立つものが予算ということもあり、どうしても規模が小さくなっていくのはいたしかたないと思います。そのことは大変残念なことです、小さいながらも、周辺施設との関わりを持たせるということで十分に回避できることと思いますので、回遊性を考えて、すぐにではないにせよ、徐々に中空回廊を設けるということについても検討して行ってほしいと思います。

それから、示されている案の中にも、環境先進県ということが出されておりますが、県外の方を含め、多くの方から足を運んでいただけるように、環境先進県として模範になるような、また興味を持たれるような施設にして欲しいと思います。以前から話をしているのですが、知事もおっしゃっている再生可能エネルギーの導入について、まずその一つとして、県産材を多く使用した建物にすること、次に山形県産材等を使ったチップや木質ペレットを使用したボイラーの設置。周辺施設との関わりにおいては、いずれはインフラを各施設に賄えるような取組みを取り入れて行っていただきたいと思います。

それから、施設の中の居心地の良い場所として、ホワイエだったり、ロビーだったり、アーティストラウンジだったり、そういった場所に大断面を大いに使用して、壁面や天井面に木をふんだんに現したようなものに造っていただきたいと思います。それは即ち、いずれ何十年か後に解体をしなければならなくなったという時にも、コンクリートや鉄骨ではなく、木材であれば、いろんな形に変えてエネルギーにすることも可能だと思いますし、そういった面でも先を見据えたエコな建物、それがイコール環境先進県につながるのではないかと思います。構造の面でも、耐火認定された木構造となればまだまだ事例は少なくさきかけの施設として、壁面内部をCGを使って紹介することなどもできると思います。

今、森林を活用する、里山を活かそうという様々な取組みが各地で行われておりますが、こういった取組みは小さなところから発信して行って、だんだん広げていくような形に持っていけないと中々うまくいかないものだと思うのですが、それらを推奨している山形県ならではの、今回、この施設を活かして全国に発信していけたら、素晴らしいと思います。一気にはできないとしても、第2部、第3部と、周辺施設を巻き込んで連携していくとい

った構想があるということも売りになると思いますので、その点からも充分配慮して計画の中に盛り込んでいただければ良いと思います。

また、装飾などに文化品とか芸術品を持ち込むとなるとまた予算がかかると思いますが、山形県で取り組みが行われている有機E Lだったり、和紙等多くの山形産を使うということは大いに可能なのではないかと思います。建物自体を楽しめるものにして集客につなげていってほしいと思います。

本間委員：

一言、ちょっと今の大泉委員のご意見にお話させていただきますが、木造地場産を活用する、地元の木材を活用するということは私は大賛成です。南陽市が今文化ホールを工事中ですが、私は次点で落選しましたけれど、それはオール木造で作らなかったからです。音響の専門家のご意見を聞くと、音響のことを考えると、木造は問題があると言うのです。遮音性もさることながら。それで私は、土蔵みたいに考えたらどうかと思って、木造で、壁質を木の中に流し込んでですね、土蔵はそうですからね、そういう発想でコンペの案として出したのですが、オール木造でないというのは、柱と梁のジョイント部分に非常にモーメントが大きくかかるものですから、そこだけ鉄骨や鉄筋で補強したのです。そうしたらオール木造ではないのではないかということで、外れて次点になってしまったのですが、伊東さんも今関わっていらっしゃるんですね。参考意見として、オール木造の場合、何か問題がありますか。

伊東正示氏（オブザーバー）：

やはり木造で大加工の空間を造る大変さというのがありまして、劇場の場合にはいろいろな技術的なもの、それから公演ごとにかかなり荷重がかかるものを持ち込んで吊り込んだりするわけです。それがなかなか大規模な加工を木造でやっているという制約があるということで、南陽市の方でもいろいろ検討しながらやっているところです。

大泉委員：

技術も年々進歩しています。まだ設計段階ですので、一部、表面の吸音の必要性などから表面材を全て木現わしというわけにはいかないのかもしれませんが、出来る限り木を現しで、ホワイエとかロビーとか、アーティストラウンジ関係とかに使っていただきたい。また、内壁部の見えなくなるところは、前回も申し上げましたが、CG等でこんな感じの構造になっているんだよということがロビーなどで見られるような形で、是非多くの木材を使っただけいたら素晴らしいと思います。

本間委員：

木材の木の表現はできると思います。テルサも全部木で出来ているようですが、全部木ではないのです。木のように表面だけ見せているだけで。燃えるものはホールの中では使えないのです。ですから、おそらく南陽市の場合は、骨組みは木で、天井である程度不

燃性を持たせておくといったことかと思えます。でも、今国交省でも、建築基準法改正しようかというところまでいっておりますので、木をどんどん使ってくださいという、そういう方向ではあるのです。でも、どこまでそれが、今国会でも建築基準法の改正案が提出されているようですから、少し木の使う厳しい条件はだんだん緩和されていく方向にはあるのだろうと思うのですが、現在のところはまだ、ホールをオール木造でやった例は少ないのかなと思えます。ただ、そういう感じは出せるということです。

伊藤委員：

新聞等で見ましたけれども、前回の計画よりも小ホールと野菜工場が削られたというのは聞いておりました。

この県民会館を建てる目的の一つに、やはり 2,000 席のホールが無いと山形に呼べない催し物がいくつあるということを聞いておりましたので、それは最低限防げたのかなど。そうした催し物が来ないために山形の人がそういう機会が得られないというのは可哀想であり、文化県としてはちょっと語り落ちることかなと思っておりましたので、これは確保されて良かったと思っております。

コンセプトとか、山形らしい発信機能という、こうしたそれぞれの主張に対しては大賛成です。山形に最初に着いた時に、訪れる玄関口にそういった機能があるというのは非常に有利性があると思っております。

問題はこれをどうやって動かしていくのかというか、運営の仕方にあると思えます。気になったというか、細かいことで恐縮ですが、管理部門の中に、託児施設の常設化というのがあります。「公演時のみならず、安心して文化活動の時間が過ごせるなど、子育て期の心豊かな山形ライフを支援」とあるのですが、これはかなり運営が難しいのではないかと思っています。おそらくこれを民間の法人とかが運営することになるのでしょうか、果たして継続してやれるのかなど。これでは無理だと辞めて出て行くような事態にならないければと。何日前に申し込むとか、あるいは、日頃預かる子どもと、外部からその都度やって来る子どもとの比率をどうするのか、料金体系どうするのか、といったことについて、様々な工夫が必要ではないかと心配しております。やはりこのところ、何か上手い運営方法があればお聞きしたいと思えます。

事務局：

いろいろな方々のご意見を承りながら、おっしゃられるような形にならないように工夫してまいりたいと思えます。

齋藤委員（園部副委員長代理）：

概要等見せていただいて、初めて見る者にとっては素晴らしい、いろいろ多岐に渡って県民の皆様に喜んでもらえるような施設、使い易い工夫がされていて、私としては良いのではないかと思っております。

私は山形交響楽団というオーケストラの人間なので、大ホールについてちょっとお話をさせていただきたいと思います。演奏団体の事務局員というのは、何が仕事かと言いますと、いろいろなものがあるのですが、最終的に一番上に来るのが、お客様に喜んでいただける演奏、満足していただける演奏、そういう環境を作ることが事務局の仕事です。現在山形交響楽団の演奏が、手前味噌ではありますが、全国的に非常に良いという評判になっておりまして、かつて無かったことなのですが、評論家の方が山形に聴きに来ていただいたり、それから雑誌の取材も来ていただいて、ちなみに本日発売のレコード芸術という雑誌の中にも、山形交響楽団のことが記事になっておりますので、興味のある方はお読みいただきたいと思います。

全国的に良いと言われ始めたのは、もちろん、楽団員ですとか、指揮者の演奏力もあると思いますけれども、それだけではなくて、私が考えますに、他に二つの要因がありまして、一つはお客様です。山形のお客様、山形県民の方は非常にレベルが高く、レベルが高いというのは、うちの定期演奏会に来ていただいているお客様というのは、演奏に対する集中度というのが非常に高いですね。今、山形交響楽団が良いと言われているのは、演奏者の力だけではなくて、お客様の聴くレベルが高くなっている。お客様の聴くレベルが高くなっているということは、それだけの演奏をオーケストラに要求してきます。言葉ではなくて、聴く耳で要求してきますので、オーケストラも必然的に演奏レベルが上がります。演奏レベルが上がると、お客様もついてくるように一生懸命聴かれます。山形交響楽団の定期演奏会は割とプログラムが先進的で、聴いたことがない曲も結構入っているとされています。初めて聴かれる曲、中には1時間、1時間20分もかかる曲もあるのですが、それについても最後まで集中して聴いていただける。私は山形のお客様はすごいとどこに行っても言うのですけれども、私が自慢しているところです。

それからもう一つ、大きな要因というのが、やはりホールなのです。お客様が演奏に集中できる、演奏者が演奏に集中できるという環境を作り出すのがホールであって、例えば細かい話ですが、空調の音がうるさいとかそうなってくると集中できなくなります。私達の仕事としては、例えば演奏中に歩いている人、それからカメラの音ですとか、そういったものを無くして、お客様がとにかくステージに集中できるような環境を作る。それがホールとしての使命だと思います。ですから、そういったものを目標にしてホールを造っていただきたいと思います。それはこれからの話なのかもしれませんが。

それから、目玉と言いますか、ここに雑誌がありまして、「モーストリー・クラシック」という、我々の音楽の世界では結構知られている雑誌なのですが、その中に、世界の殿堂、世界の名門ホールというのが特集されていて、ホールというのは、オーケストラの特集もあるのですが、特集を組まれるほど、音楽の目玉と言われるわけです。ですから、あそこの街にはこういうホールがある、あそこの街にはこのホールがある、ヨーロッパではそれが普通になっているのです。この雑誌の中に、世界のホール、それから日本のホールも特集されておりまして、その中に地方のホールも入っています。地方のホールで、東北で掲載されているのが二つありまして、一つがテルサホール、もう一つが、福島のいわきにあるいわきアリオス、その二つだけが東北では載っております。テルサホールは小さい

ホールで、先ほど本間先生からお話がありましたように、前に県民会館を造る時に、テルサホールは県民会館大ホールの中ホール、小ホールの役割を果たすと聞いていたので、若干間口も小さくて、オーケストラが乗るには若干小さい場合もあります。うちはそれに合わせて今やっておりますが、大きな曲をやる時にはテルサホールが使えなくて、市民会館ですとか、ステージの大きいホールに行ったりするのですが、そういったことが、この2,000という数字が多いのかどうかというのもあるのですが、私共の最高の集客が1,800人だと思ったのですけれども、2,000人集めるのは至難の業なのですが、すみずみまで音が届くようなものを造っていただければ、それは解決すると思います。お客さんが入るか入らないかというのは別にしても、良い音がすみずみまで届くようなものが出来れば良いと思いますし、そうしていただきたいと思います。

山形テルサホールは、音色ですとか、響きはもちろんですけれども、ホール回り、控室ですとか演奏者だまりですとか、そういったものも非常に良く出来ております。ですので、そういったコンセプトを参考にさせていただくとか、そういうことをしていただきたいと思うのと、実際にホールを設計するにあたって、使う人たちの意見を聞くとか、そういうことはおありなのでしょうか。

貝山委員長：

設計段階で専門家のご意見を聞くというのは当然のことと思うのですが、広く意見を聞くことが今後あるのかどうかということなのですが。

事務局：

様々な形で伺っていくことは考えております。

齋藤委員（園部副委員長代理）：

先ほど、県民のためのものか県外のお客様のためのものかというお話もありましたけれども、それは両方だと思います。山形にお客様を呼ぶ、これは私達のオーケストラがそうなのですけれども、CDも十何枚か出してございまして、それは何故かという、それを聞いていただいて、気に入っていただければ是非山形に来て聴いてくださいと。山形で私共の演奏は最高の演奏です、山形ならではの演奏をします、山形が最高の音です、ということのを売りにして県外のお客様に来ていただいております。現に、東京から、北海道、遠くは九州からも来てくれるようになりまして、先だつての大雪の日にモーツァルト定期というのがあったのですが、事務局に電話が来たのは、仙台まで来たが、仙台から山形に行く術が無い、断念して帰りますと、なのでお金返してもらえますかとか、そういう話もありましたけれども、そのように全国から集まってくる。こういったホールが建てば、東北で本格的なオペラが出来る。オーケストラピットを揃えたホールはほかに無いと思うのです。そういったものが出来て、例えば東京などに来る本格的なオペラの引越し公演も山形でやれる。山形のお客様は本当に楽しんでいただける。しかも、県外からもお客様をそこに呼んでこられるということもあれば、山形としての様々なアピールも出来ると思います。

私ども山形交響楽団も、11年目ですか、東京オペラシティというホールで6月にさくらんぼコンサートというコンサートをやっております、その時に、山形県産のさくらんぼを抽選で当てるようにしたり、ロビーでは山形の物産市をやったりしています。最初、いろいろなところで、クラシックの演奏会なのにホールで物産市をやるのは何事だとか、いろいろなことを言われましたが、ホールの中の演奏と、ロビーの物産市は全く切り離して、演奏は演奏ということでやるのです。今では東京のアンテナショップさんのご協力も得てロビーでやっているのですが、ほとんど売り切れる状況で、お客様にも非常に喜んでいただいている。ですので、こうした県民会館の中でも、施設の中でそうしたものがあるというのは、他から来た人にとっても良いし、山形のお客様にとっても、山形にはこういうものがあるのだということを改めて認識していただき、購買力が上がるとか、いろいろなことがあると思います。

先ほど、古内委員さんや本間先生からもお話があったように、テルサと県民会館を繋ぐ通路、これは駅もそうなのですけれども、私ども、ホールに来るときに、雨が降ったり雪が降ったりという時にとても苦労するのです。楽器を持って移動するとか、お客様が移動するには絶対に橋が必要だと思います。お客様が演奏に集中していただける、演奏家が演奏に集中できるホールを是非とも造っていただきたいと思います。

三辻委員：

施設の基本的な構成と内容で、変更があったことは理解しました。それで、ホールの話は先ほどからいろいろな方が話されておりますので、建物全体の話でちょっといくつかお話をしたいと思います。

前日も申し上げたのですが、駅のすぐ近くですね、駅西口に造る大型施設ということで、人の動きをどうするか、要するにどうやって人をこの施設に来てもらうかということ、多分これから詰めていかれると思うのですけれども、少しずつ具体的にやっていただきたいなと思います。例えば演奏会がある時などは大ホールに人が沢山来るわけですから良いのですけれども、演奏会がない時にですね、野菜工場が削られたという話もありましたけれども、どうやってここに人を呼び込むかですね。山形発信機能の部分と、ロビーの部分と、あと創造育成の部門が重要かと思いますが、そういう意味だと、普段から音楽活動をしている方とか、芸術活動している方に練習の場として使ってもらうということが一つ挙げられると思います。それは創造育成部門でできるでしょう。ただ、それで充分かということ、それではまだ寂しいのではないかという気がしまして、ではどうするかということ、駅の近くですから駅の利用者を巻き込むのが良いのではないかと。そうすると、例えば、山形市近郊から山形市内の学校とか職場に通っている人が、学校なり職場なりの行き帰りにちょっと寄って、ここで時間つぶせるような機能を入れてはどうか。具体的には、私が個人的に思いついたのは、図書館とか資料館的機能をつけてはどうかと思いました。図書館などと思われるかもしれませんが、普通の図書館ではなく、折角ホールがあるわけですから、音楽、芸術関係に特化したようなですね、そういったことをやっている高校生だったり大学生だったり、ここに来ると、例えばお金をかけなくとも貴重な

資料が見られますよとか、ちょっとここに寄って勉強していこうとかですね、そんな機会を提供できるような機能が、広くなくとも良いのですけれども、入ってくると、そういった人達は利用するでしょうと。そういったことがまず一つ思いつきました。

そういう意味だと、多分この後もしかすると計画されているかもしれませんが、どういう年代の方、例えば10代、20代、30代、40代、50代、60代ずっと、どういう年代で、男性、女性、どういう性別で、どういう職業、の方にどんなふうはこの建物を使ってもらおうかという、プログラムというか、ちょっと細かく設定されてはどうかと思います。なかなか建物造った人の思い通りに使ってもらえるかという、そうはならなかったりするとは思いますが、いろいろな使われ方を想定すると、今の基本的な構成の中の機能がもっと具体化するのではないかという気がしました。

ちょっと話が飛びますけれども、発信機能が産直レストラン・カフェ、県産品ショップだけで良いのかという気がしまして、こういうところに先ほどの資料センターや図書館的な機能を盛り込むと、もっと多様な使い方が出来るのではないかと思います。要するに、今のレストランとかショップというのはどういった人向けの機能なのかなと。なんとなく、観光に来た人向けのような気がしております、普段山形に住んでいる方に対して、これがどれ位使われるのかというのがちょっとよくわからなかったですね。そのあたりを少し、今後詰めていかれると思うのですけれども、いろいろ考えていただければと思います。

あと、災害の話ですけれども、災害機能は、文面を読んでいるだけだと、何となく広場を中心に対応するようなイメージに読めたのですけれども、先ほど始めの方でも話が出ておりましたが、建物内部をどこまで使うか、いざとなった時に帰宅困難の方に対してどこまで建物を使うことを許容するのかという、そういったプログラムもある程度考えなければいけないと思います。東日本大震災の時に、具体的な名前を出して悪いのですけれども、JRが駅を全部閉めてしまって、トイレも全部使えないようにしてしまって随分批判を受けていましたけれども、災害対応時ですね、これ前にもお話したと思いますけれども、この施設、ここではなくとも、霞城セントラルならそこでも良いのですが、施設の、どこをどういう段階だったら、どこまでの建物内部をそういった被災された方に開放するかとかですね、そういったことも防災機能の中では考えていかななくてはならないかなと思いました。

貝山委員長：

皆様にご意見を出していただきましたが、私ちょっと最後、いくつか発言をさせていただきたいのですが、皆さんからも出ていることなのですが、この施設単体であらゆる機能を賄うということはありませんことだと私は思っております。何よりも、テルサとのリンクをどうするのか、あと、発言には出ませんでしたけれども、霞城セントラルの有効活用ということも視野に入れてリンクをしていかななくてはならない、何よりも駅とのリンクをどうするかという、そうでないと賑わいも出てこないと思います。多分この土地の再開発は全体的な構想がちゃんとあって、それぞれいろんな施設は機能していたはずだと思います。ですから、小ホールが無くなったということではなくて、その機能をテルサで代替

できるのだということがわかったという形でご理解いただければ良いのかなと私は思っております。そういうことで、駅も含めて、霞城セントラルも含めて、ここで盛り込まれた機能を他で代替できるのであればそれを見つけていくという、その努力を今後ともしていただきたいということです。

あと、前回の懇談会の後に議会にこの案が提示されたわけですが、議会では当然、このお金はどうするのかという議論がメインになります。従って、全ての要望がかなえられるのは普通ありえないので、ここは妥協していかなくてははいけないと思います。多分皆さんのご意見の中ではですね、2,000席、ここは絶対はずせないというような専門家の皆さんのお立場だったのだらうと思うのですが、あともう一つ、ここは県民の方あるいは県外の方も利用する、そういう場であってほしい。だから県民の人が集う、あるいは観光で来た人が寄っていただいて楽しんでいただくという、そして山形の良さを知っていただく。そういう山形らしさをここで出して、県民そして県外の人両方に楽しんでもらう、そういう施設でなくてははいけないと思います。

その中で、前回この会議に出席していないのに申し上げるのは心苦しいのですが、野菜工場の話がありました。私は山形の良さというのはそういう工場で作ることではないのだらうと思っています。東京の銀座四丁目で作ったならばものすごい付加価値のあるものだらうと思いますが、山形は立派な自然があります。素晴らしい土壌があります。やはりそこで育った本物を県民の人県外の人にご馳走するという、そういう考え方だらうと思います。私はそういう考え方を持っていますから、あの話を聞いたときに、ちょっと私の考えとは違うのかなと。ガールズ農場で作ったものを食べてくださいよというのが山形らしさを出すことになるのだらうと思いました。今回議会の中でもこのことが争点の一つになったようで、それを受けて撤回はしておりますけれども、山形らしさをもっと色濃く出すためには、今申し上げた自然とどうやってここはリンクしているんだという、そこを出していかなければ山形らしさは出てこないのだらうと私は思っています。

いろいろご議論ありました。ここの議論というのは、県民会館ありきという印象を与えたような出発をしましたけれども、県民にはいろんな考え方を持っている方もいらっしゃいます。サッカースタジアムというのも一つの考え方だと思っておりますが、県の方で決断されて、設計のための予算取りもしたということは、ここは県民会館、あるいは芸術文化施設でやっていくのだという、そういう決意を示されたと思っておりますが、そうでないお考えの方には大変申し訳ないのですが、県はそういうことでスタートをしたと、私はそう考えています。皆さんから大変いろいろな良いご発言をいただいたわけですが、今後とも、県民の方のご意見をどうやって吸い上げていくかという、ホールの建設の問題は専門家のご意見を当然伺うべきだと思いますが、専門家でない、そういう方達が意外と良い発言をするかもしれない。ですから、そのためのアンテナだけは常に張っておいていただいて、そういうものを取り入れる勇気を今後とも持ち続けていただきたいと思っています。

おそらくこれが完成すれば東北一の施設になると思いますが、そのためにも、是非みんながあそこに行っているような活動をする、そういう場になってほしいと思います。

先ほどの、県産材をどうやって使うかということも、骨格として使うことは難しいということであればですね、いろんなところにそういう材木を使うやり方はいくらでもあります。前にも申し上げたかもしれませんが、青森公立大学という大学があって、外から見るとコンクリートのどうしようもない建物に見える。これは雪のことがあるので、八甲田山の麓にあるのでしょうがないのですが、中に入ると、結構青森ヒバを使っています。ですから、中に入ると木のぬくもりを感じる、青森らしいなということを感じさせる、そういう建物でした。そういう工夫の仕方もあると思うし、県産材を提供する業者の方には、是非儲けなしで安く県に提供してもらい、みんなで協力してこれを造るといふ、そういう姿勢を業者の方にも見せていただきたいと思います。

他にご意見がなければ、本日出された意見も是非汲んでいただいて、良い設計をしていただきたいと思います。それでは事務局に進行をお返しします。

企画振興部長：

本日は貴重なご意見をいただきましてありがとうございます。座長からもありましたように、ご意見を参考にさせていただき、また、議会の2月定例会もございますので、その意見なども踏まえまして、これはまだ見直し案ではございますけれども、最終概要を3月下旬に作成することになります。

いずれにいたしましても、この施設の概要というものを踏まえまして、このあと、文化施設、複合的な文化施設と申し上げたいと思いますけれども、予算はまだ通っておりませんが、予算が通りましたら、基本設計の見直しを進めてまいりたいと考えております。

施設の概要についてのご意見を賜りまして、所期の目的を達成することが出来たと考えております。改めて貴重なご意見をいただきましたことに対して御礼を申し上げたいと思います。ありがとうございます。委員の皆様方には、今後とも県政へのご助言、ご支援賜りますようよろしくお願いいたします。

事務局：

以上を持ちまして、平成25年度第2回山形駅西口拠点施設検討有識者懇談会を終了いたします。本日はありがとうございました。

(16:40 終了)